【令和元年度厚生環境常任委員会　行政視察報告書】

・視察期間：令和元年１１月１１日（月）～１３日（水）
・視察先及び目的
１１日：大阪府寝屋川市
「子育てリフレッシュ館リラット」の現地視察について
１２日：大阪府高槻市
「ピロリ菌対策事業」について
１２日：兵庫県尼崎市
「いくしあ（子供の育ち支援センター）」の現地視察について
１３日：大阪府豊中市
「そらやん保育園」の現地視察について

・視察参加委員：北山敬太、飯田盛好、岡部いづみ、五十嵐桂一、
平川美由紀、小林千代美、落野章一

１１月１１日（月）：大阪府寝屋川市
視察目的：「子育てリフレッシュ館リラット」の現地視察について

<u>説明要旨</u>
●「子育てリフレッシュ館リラット」の概要について
・「リラット」を始めるきっかけは、平成２７年市長就任時、駅前で一時預かり施設が必要との議論が上がる。母親や父親がどうしても子供を置いていかざるようなことが起きた時に、子供を見てくれるところはないという市民からの声から市として預かる施設を作るべきと考えたのが始まりであった。
・包括支援センターの設置を考えていたところだったので、包括的に子供施策を行えることで市民にとっても良いと考えた。
・市民アンケートを何度かとったり、意見を聞いたりしてニーズに合ったものを採用した。特に「遊び」と「交流」と「相談」が出来る事を重視した。
・平成３０年７月オープンの施設、在宅の子育てサポートを目的に作られた。
・新たな問題として平日が少なく、休日が多いという問題点が浮上した。そこで、平日に来ることで得する策を取った。０歳から高校生までの居場所を提供している。

<u>質疑応答</u>
Ｑ　一時預かりの対象はどこまで？
Ａ　リラットは未就学児童を対象。（ただし同行してきた小学生には対応）

Ｑ　事前予約なしでも一時預かり可能か。
Ａ　利用は登録されていれば当日の空き状況により受け入れ可能。（原則前日 12：00 まで）

Ｑ　遊具の選定はすべて市民要望で選定されたのか。

Ａ　事前のアンケートによる市民要望によって、プロポーザルの際、ボールプール、大型滑り台、エアトランポリンサイバーホイール、クライミングを入れるよう指示。（キネティックサンドは事業者提案）
Ｑ　少ない時と多い時の利用者数は？
Ａ　利用者は平日の少ない時で 30 人、土日は多い時で 300 人。
Ｑ　高校生とゼロ歳児の親子との交流を図っている事例があったが、どういう効果を狙っている

のか。
Ａ　高校側から命の大切さを学ぶ授業をやりたいという要請があって、子育て支援拠点で希望者を募る協力をしている。
Ｑ　最初から民間委託をするという考えはなかったのか。
Ａ　運営経験がないので委託の仕様書が書けなかったというのが実情。

感　想

・子どもの遊び場と一時預かり保育、また保護者（お母さんたち）の息抜きや情報交換の場を一体にした施設というのは全国でも珍しいと思う。計画当初から、行政の判断ではなく利用者である保護者層に繰り返しアンケートを行い、上位意見を積極的に採用しているところが市民本位、利用者本位で高い評価を受けている理由だと感じた。施設内も見学させていただいたが、オープンして１年余りの施設のため、たいへん開放的で清潔感があり、幼児に大人気な理由がわかる。また、一時預かりは空きさえあれば当日でも利用可能など、急用が生じた際にも臨機応変に対応してもらえる点は保護者にとって使い勝手がいい部分だと思う。一方で、利用者数については平日と土日、また春夏秋冬でばらつきがあるとのこと。遊びのスペースについては遊具の更新や修繕等も必要であり、継続的に一定の利用者を確保するには行政直轄の運営では今後厳しい部分が出てくるものと思料する。
　当市にも２つの子育て支援センターと民営の室内遊びスペース「ピッピ千歳」があり、連携次第では寝屋川市と同様の効果を上げることもできることから、有機的にこれらの施設を活用するアイディアが求められるところだと思う。

・子供たちが時間を忘れ、遊べる空間があり、保護者としては、安心してあずけることのできる施設と感じた。更に中高生の居場所についても検討しているようで、これからも進化して充実していく施設だと思う。アンケート、相談窓口も充実していた。しかしながら、有料での施設なので、色々な面で気になる事項であった。

・寝屋川市は、子育て世代へアンケートを実施し、天候を気にせず衛生的な環境で楽しく伸び伸び遊ぶことができる「屋内遊びスペース」や、未就学児をもつ保護者が、用事やリフレッシュなどのために１時間単位で利用できる、一時預かりの「保育ルーム」などのニーズを反映した、子育て総合支援拠点を昨年オープンさせました。
駅から徒歩７分の場所に建設された施設は、住宅が多く建ち並ぶ地域ですが、住民からも好意的な意見が多いそうです。利用者からは、「子どもを預けて自分の自由な時間を過ごす事に後ろめたい気持ちがあったけど、お迎えの時に子どもの楽しそうな顔を見て安心しました。」など喜びの声が多く寄せられているとのことです。遊びの場・相談する場・交流する場が一つの施設にあることで、とても利用しやすくなっていると感じました。千歳市にも「リラット」のような、いつでも気軽に親子が利用できる場があれば、孤独な育児によって起こる虐待などは減らせるのではないかと思いました。子育てに悩む親御さんが息抜きをし、気持ちをリフレッシュさせて、子育てを楽しんでくれたらいいなと思います。

・子どもを預けてまで親がリラックスをすることを是としない考え方がいまだにあるのはさすが本州。大阪の友人に聞いてみると、若い人が多い地域はそうでもないが、古くからの地区では母親が子供を預けることを批判する声がまだ多いそうで、「北海道はそうではないの？」と逆に友人から聞かれた。
有料遊び場（２５０円／人・時間）は「打倒ひらパー」（枚方パークという隣市にある遊園地）というだけ、遊具は充実したものであった。高度化（？）するニーズ「子どもを室内で安全に遊ばせたい」があそこまでの立派でお金のかかる施設を行政が行うことが、果たして正しいことなのだろうか？　と思う有料遊び場だった。

・エントランスに入ると案内ロボットが出迎えてくれたことはびっくりした。この仕掛けは子供たちにとって、“楽しいところ”という印象を持ってもらうため良い仕掛けだと思う。また、小さな子供の施設だと思ったが、高校生の居場所づくりを考えているところは、千歳市もそうだがとっても良いことだと思う。全てにおいて子供たちが楽しめる仕掛けが施されており、特に壁の絵はとても夢があり、感動した。この施設を設置するまでに何度もアンケート調査をとり、利用者ニーズをしっかりと拾い上げている事は千歳市も見習うべきことである。納得がいくまで利用者の立場に立って考えて作ったことで、真に使ってもらえる施設として機能している。館長の考えでは、これからも使う側にニーズに則った施設づくりをされると思う。見習う点だと感じた。

・大阪・京都のベッドタウンである寝屋川市では子育て世代が多く、施策も若年層向けの施策に力を入れているようである。
　今回視察させていただいた「リラット」は千歳市では民間企業の力により整備されたタウンプラザ内の「ピッピ」と非常によく似た施設であった。もちろん有料施設であるがとても安価で利用しやすい。また近隣にお住まいの方にも利用しやすい料金設定になっている。この施設のポイントは子供向けでありながら効果のターゲットを子育て世代の大人、言い換えればどこの市町村でも喉から手が出るほど欲しい世帯に絞ったことである。実際の効果が出るまではもう少し時間がかかるが行政の思いが非常にわかり易く市民に伝わる施設整備であると思われる。特に若い世代の子育てに関する不安を解消しようとしている行政の姿勢に感心しました。

・繰り返されるコンセプト「おっさんの意見はいらない、お母さんの意見で進める。」は印象的だった。
　巨大遊園地ではない。公営の屋内で安心できる、ついでに大人もリラックスできる広い空間である。トランポリン、滑り台、クライミング、中に入ると大きく回って行くサイバーホールなどこちらも歓声を上げて楽しんだ。

１１月１２日(火)：大阪府高槻市
「ピロリ菌対策事業」について

説明要旨
　平成２６年度より中学２年生を対象とした検査と受診治療の無料実験を行っている。全国初の試みである。市の独自事業として行っている。
・高槻市のがん死亡・検診の状況
・胃がんとピロリ菌
・中学生ピロリ菌対策事業を導入した経緯
・ピロリ菌対策事業について
・ピロリ菌対策事業実施のポイント
・市の概要について

質疑応答
Ｑ　支援大学の大阪医科大学は府立校か？
Ａ　大阪医科大学（高槻市内の私立大学）

Ｑ　高槻市には現在も井戸水を使っている地域があるのか。
Ａ　現在井戸水を利用している地域はないが、オリンピック以前は市内でもかなり井戸水の使用率が高かったので、70 代では 2 人に 1 人が感染している。

Ｑ　ピロリ菌がいなければ胃がんに感染するリスクはほとんどないと考えてよいのか。
Ａ　ピロリ菌は胃の壁にトリガーのように引っ付いて、胃が荒らし切るといなくなる。そのよう

な場合菌が出ないことがある。

Ｑ　保護者と本人に納得していただくために何か講演等をしているか。
Ａ　特にやっていない（パンフレットだけ）

Ｑ　どうして高槻市は胃がん検診の受診率が少なかったのか。
Ａ　胃がん検診の受診率は大阪府自体が低い。おそらく肺のレントゲン検診と違って、カメラやバリウムを受ける苦しさや前日から食事制限をしなければならない等のわずらわしさがあるのだと思う。

Ｑ　なぜピロリ菌検査の対象を中学２年生にしたのか
Ａ　検診を受けるには体重 40ｋｇ以上あることが望ましいとされており、中学１年生ではまだ達していない子どもも多い。　中学３年生だと受験があることから中学２年生が最適と判断した。

Ｑ　ピロリ菌検査を実施するには医療機関との連携が不可欠とのことだが、他市でも同様の連携が取られているものなのか。
Ａ　兵庫県篠山市は「ささやま医療センター小児科」と、岡山県真庭市は川崎医科大学と連携して検査と除菌を依託していると聞いている。やはり全面的に協力してくれる医療機関がある事が施策成功のカギとなる。

感　想

・高槻市では、成人の胃がん検診の受診率が低いために、ピロリ菌検査の助成から胃がん検診の受診率向上につなげる試みの中で、中学２年生へのピロリ菌検査を始めたとのこと。説明者の橋本保健師の博識さとこの事業に対する情熱は並々ならぬものがあり、「簡単な議論で導入するのは無責任。除菌を確認するところまでやりきれないなら止めた方がいい。」とはっきり言いきっていた。説明を受けたとおり、高槻市には連携してくれる医科大学が市内にあることが大きいと思われる。高槻市の説明では、ピロリ菌の除菌は対象が若いほど胃がん対策として有効と断言していたが、当市では、過去に３度議会でピロリ菌検査導入の必要性が取り上げられており、市は、国が胃がん予防のためのピロリ菌検査を推奨していないことから、導入については慎重に検討するという答弁にとどまっている。
今後先行する高槻市等の成果や当市の胃がん検診受診率（胃がん発症率）の推移を見ながら、検討を続けてもらいたいと考える。

・大学病院とも相談し、中学２年生での検査がベストであることから、高槻市に在校する中学２年生全員を対象に検査を行っている。検査によりピロリ菌が見つかった場合、保護者と相談し、除菌までの面倒を見る。千歳市においても、宝でもある子供たちに対し検査・除菌が必要と思われた。

・高槻市では、胃がん検診受診率の低さから、ピロリ菌検査を市の独自施策として実施することにしました。30 歳から 60 歳の５歳刻みの年齢に一生に一度、自己負担 500 円で実施し、ピロリ菌検査は若年者対策に有効なため、中学生への検査も併せて自己負担なしで実施しています。中学２年生のピロリ菌検査・除菌は、対象者が子育て世代になった際、子どもに感染するリスクをなくすことができるので、子育て支援の一つとして取り組んでいます。当初は症状のない生徒に検査をする事に対する不安や、子どもを実験台にしているのではなどの声もあったようですが、市内にある大阪医科大学が喜んで協力してくれたことが実現につながったとのことです。何よりも、担当職員の熱意が大きいのではないかと感じました。学校、教育委員会などの関係各所と何度も話し合い、何度も頭を下げて回ったとの話にこちらこそ頭が下がる思いでした。国は胃がん検診の実施方法として、ピロリ菌検査については、有効性の評価が不十分であることから推奨していません。しかし、国が求める統計データを出すには 30 年かかるそうです。その 30 年間でど

れほど胃がんのリスクを減らすことができるかと思った時に、千歳市でも独自施策としてピロリ菌検査・除菌を実施すべきであると思いました。

・まずは事業担当者（保健士）の熱意に圧倒された。多分様々な講演などでは話をされているのであろう、実に慣れた説明であった。
検査をするだけが目的ではなく、フォローアップが大切。検査だけして「あなたは陽性です。直してください」とほったらかしが一番よくない。不安を与えるだけであり、ほったらかしにしないためには医療（私立大阪医科大学）の協力が不可欠との説明を受けた。
果たして千歳市（と千歳市民病院）にその熱意があるだろうか？？？

・市民の健康を考えての事業であるが、ここまでしっかりと行っていることに驚いた。胃癌の検診率が低いということから考え出した施策であるとは言え、大学を巻き込んでの癌対策は見習いたい。人口を増やすということの施策の一つとして健康な市民を作るということの重要性を感じた。千歳市としても見習うべきだと思う。是非、千歳市も中学生への実施を検討すべきと考える。また、高槻市は中学生のためにピロリ菌についてのパンフレットも作り、生徒や父兄に対し理解を求めている。市をあげて積極的に進めていることが分かった。

・胃がんの主たる原因はピロリ菌であるという認識が浸透しているが、水道が普及して対策など要らないのではないかと思いながら担当者の説明を聞きました。目から鱗とはこのこと。水道の普及により生活環境（井戸水）からのピロリ菌感染はほぼ無いが母子間の経口感染が多く、現代社会では遺伝のように胃がんが子孫に伝わっていると教えていただいた。子育て中あるいは普段の生活の中で子供が小さいうちは、咀嚼中のものを与えたりすることは珍しくない。しかし、それが胃がんにかかる可能性を高めているとすれば、中学生の年代に検査を行うことはガン予防の観点から有効性が高い。ただし、ガンは多種あり罹患率、死亡率など様々な状況なので、この事業を市民に理解してもらうためには大きな努力が必要である。

・市内に大阪医科大があり協力体制がしっかりしていること、市内の医療・教育関係者の協力体制があることなどの好条件があるので、どこでも真似できるものではないというのが率直な感想である。しかし、胃癌はいまだに罹患率２位で、ピロリ菌除菌による効果はほぼ１００％であり、たいへん魅力的である。
　市立ではない中学、私立の中学や府立の特別支援学校の生徒さんにも電話をかけて検診に参加してもらう熱心さにも注目したい。

１１月１２日(火)：兵庫県尼崎市
「いくしあ（子供の育ち支援センター)」の現地視察について

説明要旨
・「いくしあ」を含む「あまがさき・ひと咲プラザ」は、先行していた教育総合センターなどがある、ひと咲きタワーに加え、令和元年 10 月 1 日に子どもの育ち支援センター「いくしあ」とユース交流センター「あまぽーと」「アマブラリ」をオープンさせた。
・これまでの縦割り行政の弊害を打破し、子育てに関する一貫した連携と対応を行うため、こども青少年局と教育委員会の担当部局が中格拠点である「あまがさき・ひと咲プラザ」に移転した・各センターが揃ったことで「教員・職員の人材育成機能」と「子どもの育ちを支える機能」、「市民の交流・学習機能」の 3 つの機能が有機的に連携した・閉校解散した短大の跡地を譲り受け、一部の建物を償却し、現存施設をリノベーションして活用。
・「あまがさき　ひと咲きプラザ」全体で青少年の成長を支援する役割を担っている。
・まだオープンしたばかりで実績と言い難い部分があるが、今のところ、「来場、電話相談、訪問活動を含めて約 100 件程度相談を受けている。

・いくしあにはコンセプトが 3 つある　①子どもファースト　②縦の連携（幼稚園から義務教育へのスムーズな移行）　③横の連携（福祉、保健、教育の子ども行政を一つのセンターで支援する）
・いくしあが誕生した背景→子どもの虐待相談が、ここ 5 年平均で従前の 3 倍以上に増加
・いじめ、不登校の子どもが国や兵庫県の平均値より高い。
・尼崎市の保護者に発達障がい児やその疑いのある子どもの認知率が低い。
・H27 年度より検討が始まり、令和元年 10 月 1 日にオープン。
・支援の一元管理（登録された子どもの情報を各課で共有できる）
・こちらの管轄である「西宮こども家庭センター」という児童相談所に職員を 2 名派遣している。
・児童相談所に行く前の段階で家庭内での生活が安定するように「いくしあ」が介入できないか。
・家庭児童相談支援の専門のケースワーカーを配置。
・各フロアごとに壁紙の色が違う。（2 階　緑色、3 階　空色）
・感覚統合室。（発達障害の子どもの体幹を見る）
・プレイルーム。（集団の遊びの中で発達障害の兆候を見つける）
・「あまがさき・ひと咲プラザ」の改修経費は全部で 14 億円。
・H17 年から子どもの育ち支援。
・H27 年度に当時の副市長を座長とする検討会議。（のちに準備組織）
・常勤、非常勤合わせて 90 人の職員。
・不登校率高い。小学校 0．86％　中学校 5．19％（全国平均　小学校 0．70％　中学校 3．81％）

<u>質疑応答</u>

Q　ここは尼崎市全体の子ども施策を担う施設なのか。
A　そうである。

Q　この場所に施設を設置した理由は。
A　この場所は 2015 年に閉校した旧聖トマス大学のキャンパスで、13,000 ㎡の土地をほぼ無償で譲り受けた。グランドの一部のみ 3 億円ほどで購入している。建物は全部で 8 棟あったが、2 棟は公共施設として既存不適格ということで取り壊し、残り 6 棟を今の形に改修して使っている。（いくしあだけで回収経費は 3 億 9 千万円）

Q　子育て支援に積極的に取り組みだした経過は。
A　H13 年に養護施設に入所していた児童が帰宅中に両親に殺害された事件を契機に、児童虐待に対する取り組みを強化しはじめた。H17 度には子どもの育ち支援条例を作ったり、次世代育成推進行動計画を策定したが、なかなか拠点となるハードを作る場所が無く、ソフトの話ばかりを検討してきた。今回このようなハードが手に入ることとなり、建物の一つを使って「いくしあ」が誕生した

Q　市で研究員まで雇われてずいぶんと力が入っているように感ずるが、ここまでの子育て複合拠点にした理由は？
A　今までそれぞれの部局で取り組んできたことがバラバラだった。これまでも事務所も家庭児童相談所も教育委員会も一所懸命やっていたが、点のままで線になってなかった。子どもの問題は複合的で様々な問題が絡んでいるので、単一の部局だけががんばってもなかなか解決しない。有機的に結びついて一緒にやらなければ効果が出ないということで、専門職 90 名を一堂に集めてこのセンターをつくることになった。

Q　尼崎市における子育ての大きな課題といえばどのようなものになるのか。
A　大きくは 2 つで、児童虐待と不登校である。児童虐待はネグレクトが多い。2 つの背景には発達障害があるのではないかということで、子育て支援だけではなく、子どもの育ちを支える支援に取り組んできている。

Ｑ　説明を聞いているとASDは専門家に任せて、LDとADHDだけをいくしあで扱うということか。
Ａ　そもそもASDとLDとADHDを完全に分類することは難しく、重複して3つとも持っている児童もたくさんいる。いくしあには発達障害の診断ができる専門医が常勤しており発達検査もできる専門家を集めてきているところも特徴である。

Ｑ　施設内にある看護専門学校とも連携しているのか。
Ａ　看護学校自体は市の建物ではないが、実習生をいくしあで受け入れたり、看護学校の文化祭に参加したりという連携をこれから実施しようと考えている。

Ｑ　不登校の子どもたちがここにきて勉強するカリキュラムもあるのか
Ａ　不登校の子どもたちが集まる教育支援室「ほっとすてっぷ」の一日の流れは組んである。ただし、学習指導要領に則っているかというとそうではなく、子どもたちの現状に合わせるので、中学生でも小学校レベルの学習に遡ったり、心をほぐす必要のある子どもには体験学習を多めに行った調整を個人個人に弾力的に行っている。

Ｑ　「ほっとすてっぷ」の入所状況は？
Ａ　WESTが定員20名のところ満員で入所待ち状態、EASTがここにあるが、定員40名で、今日現在32名が通所している。

Ｑ　フリースクールもあるのか
Ａ　フリースクールは市内に私立のものが2つあり、登校している子どもは数名いる。

Ｑ　児童虐待が全国的に話題となり、自治体と児相と警察が三すくみ状態になって子どもが死亡したというような報道も垣間見るが、児相に市の職員を派遣することでそのあたりのリスクが顕著に減ると見込まれているのか。
Ａ　過去に当市でも児童が良心から虐待死する大きな事件があった。この事件が尼崎市が児童虐待に真剣に取り組む契機となったことは間違いない。このいくしあができたから児童虐待の芽が摘めるわけではなく、これまでの17年間の取り組みがすでにある。このいくしあの中には「要保護児童対策地域協議会」という、児童虐待の予防部門も入っており、児童虐待に至る前に手を差し伸べられる仕組みを構築している。

感　想

・『いくしあ』は0歳児から18歳児まで子育てに不安を抱える家庭、児童虐待、不登校、発達障がい、ひきこもりなど、子どもの成長に関わるあらゆる問題に対応し、保健師や専門のケースワーカー、教育委員会の担当などを配置して情報と対応の一元化を図っている。その背景には、児童虐待や不登校など尼崎市が抱える子どもに関する根強い課題があり、すでに保護者を対象とした子育て支援から、ストレートに子ども自体を対象とした「子どもの育ち支援」に目が向けられている。今回訪問した「いくしあ」はオープンしたばかりであり、その成果はこれからになるが、相当細かな支援内容とサポート体制が構築されているので、かなり有機的に機能するのではないかと期待される。

なお、尼崎市のご好意で、「あまがさき　ひと咲きプラザ」の施設全体を3時間近く見学させていただいたが、学びの拠点「アマブラリ」には無料で使える学習室や図書コーナー、多目的室があり、活動（遊び）の拠点である『あまぽーと』には、飲み物や駄菓子などの飲食スペースやビリヤードやダーツなどの遊具のほか、ドラムやアンプが備わった貸しスタジオ、2 階にはダンスやライブの発表に使えるステージなども備わっており、小学生が17時まで、中学生は19時まで、高校生は21時まで利用できる。いじめや不登校に悩む子どもたちを孤立させずひきこもりや非行に繋がることを予防させる効果を狙ったものと言えるが、学習のためのスペースだけでなく、子どもたちの創造性を高め、学校以外の仲間を見つけられる活動空間まで提供する取り組みにまちと市民の懐の深さを感じた。

・大学校舎後を利用し、0 歳から 18 歳までの子供の支援する施設としては大いに参考になった。特に中高生の学習場所、放課後の集まる場所としては考えられている施設であると思う。簡易スタジオもあり恵まれていると思った。

・尼崎市は、平成 13 年の児童虐待事件をきっかけに、子どもや子育て家庭を取り巻く状況が、多様化・複雑化・深刻化していることを実感し、更に不登校の子どもの数が全国平均を上回っていたことから、総合支援のプロジェクトチームをつくり計画を進めていました。
設立には相当な費用と敷地スペースが必要だったため時間はかかりましたが、敷地内には教育総合センターやユース交流センターも併設され、「あまがさきひと咲プラザ」として文字どおり学びと育ちを支援する拠点となっています。
千歳市には学校適応指導教室「おあしす」がありますが、いじめ、不登校、集団不適応の子ども、発達障害やその疑いのある子どもはこれからも増加していくと思われます。
建物も老朽化していることから、新たな施設整備が必要ではないかと思います。

・大学の用地を建物付きで引き受けならなかった投資の事情があっての「複合施設」というイメージを持った。
このような施設を新設する場合、最近は周辺住民の理解を得ることが難しい場合が多いが、ここは元大学だったので理解が得られたのであろうと考える。
子どもの育ち支援センターも興味ある施設であったが、併設してある青少年の居場所「ユース交流センター」も視察させてもらい、大変興味のある施設だった。

・尼崎市は大変力強く子供施策に力を入れていると感じた。そのことは、子供を取り巻く環境に危機感を持っているということではないかと感じた。実際には不登校の子供が多いなどが背景にあると思う。そのことをしっかり考えていくためには、各部署が一丸となって関わっているという意思がうかがえた。市民も関わり子供達と向き合う姿勢に見習うところがたくさんあった。

・経営破綻した大学の跡地を既存校舎を改造して利活用した施設である。鉄路が非常に充実した関西では珍しくどこの駅からもやや遠い。利用者は自転車が主な交通手段になることを考えると、この施設の利用者の特性からやや不便である。他方、隣接するユース交流センターは中高生にとって自転車は欠かせない存在であることから全く不便さを感じない。
　どこの街でも破綻した民間企業の施設を利活用することはよくあるが、地価や利便性、地域の実情などよく考えて施設利用に取り組まなければならないと強く思った。
　視察内容とは違うが、尼崎市には町内会が無く、社会福祉協議会がその役割を担っているとお聞きしてとても驚いた。また、約１５０年ぶりに再興した「尼崎城」が１０億円という金額で建てられた事にも驚いた。城の建設費はもっと高いものだと思っていた。

・ミッション系大学の閉鎖を受けて買取改築している。その建物の雰囲気は重厚で趣がある。
　「大学並みの８名の」（この鍵かっこ内の事実はよく分からない。）　研究員がいる。一方、アマブラリでは２階はライブラリー、１階はロビーで漫画もゲームもカップ麺コーナーまである。アマポート（港という意味で名付けた）では、２階は防音の音楽ホール、１階には防音の二つの音楽スタジオがあるという多様さに感心した。

１１月１３日(水)大阪府豊中市
「そらやん保育園」の現地視察について

説明要旨
大阪国際空港民営化により生まれた企業主導型保育施設。
開設前のアンケートではニーズはさほど多くはなかったが、開設してみるとすぐに定員いっぱい。
現在は施設の増設をして定員増を図っているところである。
利用者は空港職員：地域枠＝９：１　空港職員の多くはＣＡさん、地上業務職員と大手航空会社

系列の利用者が多いように思われる。
・設立の経緯
・保育士の確保対策
・今後の施設のあり方

<u>質疑応答</u>

Q　当初 1 学年 15 名定員とした理由は？
A　施設の面積と保育士の数で必然的にそうなった。保護者によっては多人数保育を嫌がる人もいる。

Q　いまは何名定員なのか？
A　0 歳児は比較的抑えめにしているが、1 歳になったら預けるという保護者が多く、1 歳児の需要はすごく伸びている。1 歳児は現在 18 名、2 歳児以上は 20 名である。

Q　需要に追い付いていない状況であるのか？
A　1 歳児は誰もやめないと聞いているので、みな 2 歳児に上がる見込み。0 歳児は現在 12 名で 6 枠あるが、すでに園児の弟妹が 4 名内定しているので、やはり 2 枠しか残っていない。

Q　3～5 歳児は幼稚園への転籍も視野に入れている家庭もあるのでは？
A　去年の 2 歳児は転勤を除くと、幼稚園に転籍した子は 1 名のみだった。その親は仕事を辞めてしまった。

Q　空港関係者はキャリアを優先する人が多いということなのか？
A　保育所の壁があって子育て中に離職する女性が多いということで、企業も幹部一歩手前の中間管理職層を維持するために苦労している。保育の次は小学校の壁で、学童保育に対するニーズが同じように高まっている。

Q　学童の子どもはどうやって通っているのか？
A　こちらの学童は、すべて車でピックアップして連れてくる。

Q　こちらで学童をやるという予定は？
A　ニーズが高まってきていてるので話は来ている。30 代の女性が子どもが小学校に上がるのを目途にキャリアを捨てるというのは本人もつらいだろうしもったいない。何とか実現してあげたいと思う。

Q　駐車場は保護者の送迎用に必要ということか？
A　そうである。空港勤務者には車で片道 1 時間程度通勤してくる人も多いため、駐車場は必需である。

Q　2Ｆの増設は公的補助がないとのことだが、借入れで調達するのか？
A　関西エアポートの尽力もあって、10 年スパンで返済する借り入れができることとなった。これがなかったら来年 0 歳児を採れないので本当に助かった。

Q　現在はそらやん以外にも保育園を経営されているのか？
A　豊中市内の緑地公園というところで以前から認可外保育園を経営していた。そこは駅から遠いこともあり、ドアツードアで園児の送り迎えをしているので、そのノウハウを学童保育でも生かせるのではないかと考えている。

Q　認可外保育所はこの 10 月からの保育無償化はすべて対象になるのか？
A　企業主導型はとても複雑で、まったくの認可外だと 3，4，5 歳児は 37，000 円出る。ここの場合、地域枠の方は認可外と同じだが、企業主導型は 26,100 円と内閣府が定めているので差

がついている。

Ｑ　収入によって補助額に差はあるのか？
Ａ　ない。まったく同額である。

Ｑ　伊丹空港は敷地が兵庫県と大阪府、自治体も４つに跨っているので、それぞれの自治体による対応の差もあるのではないか。
Ａ　伊丹市は 4～5 歳児に対して昨年から試験的に別の助成を行っている。プラスアルファの援助があるので、伊丹市民はほぼ認可外と同じ程度になる。割とドライなのが池田市で、自治体によって差が大きい。

感　想

・初めて空港隣接の「そらやん保育園」を視察したが、企業主導型は内閣府が創設した制度で一般の認可外と比較して、国の助成に差があることを知った。10 月の保育無償化によって 3 歳児以上は一律無償扱いとなるものと考えていたので意外であった。近隣自治体の差額補助についても大きな差があることがわかった。結果的に施設の開設から維持まで、母体となる企業がある程度の持ち出しを余儀なくされることとなる。空港関連企業は比較的経営が安定した企業が多いとはいえ、職種や所属する会社の規模によって、企業主導型保育所に入所するハードルは変わってくるものと感じられた。
　伊丹空港周辺の自治体は慢性的に待機児童が発生しており、保育所に入れないことを理由に、出産を機に職を辞してしまう中堅女性職員が多いとの事であった。千歳市は現在潜在的な待機児童がいないため、比較的簡単に保育所に入所できる条件とはいえ、「そらやん保育園」のように早朝から深夜までの保育に対応しているところがない。
　新千歳空港も来年から空港民営化が本格的にスタートし、空港近隣に企業主導型保育の必要性が議論されるケースが出てくる可能性があるが、伊丹空港のような従業員の車通勤を認めていないため、空港隣接型の設置は難しいかもしれない。全国的な人材難の中、またシーズンによって勤務時間が不規則となる職場環境の中で、仕事と育児の両立に悩む従業員の保育ニーズにどこまで応えることができるのか、当市も含めた早急な検討が必要であると感じた。

・施設そのものは認可外ではあるが、想像以上に子供たちがあずけられており、保護者からも信頼されているのには感心した。場所についても空港の近傍であり、利用しやすい立地条件が備わっていた。子供たちと一緒に給食を頂いたが職員は常に子供目線で対応していたので、子供達も元気で色々と話しかけてくれたのには心地よい空間であった。しかし新千歳空港をイメージしてみると職員の駐車場問題、利用者はどの程度いるのか、勤務している方々の声が必要と思えた。

・そらやん保育園は関西エアポートの企業主導型保育施設で、2018 年 4 月に開園しました。空港ならではの保育所が必要と考え、空港内の空きビルを利用し施設を整備しました。
空港従業員の初回アンケートではニーズが低く、30 人位と見込んでいましたが、建物がたつと利用者はどんどん増え、現在は 70 人ほどが通園しています。0 歳児に関しては 20 人以上の方を断っている状況で、新たに保育スペースを増設中とのことでした。企業主導型保育施設は、利用している企業同士の話し合い、企業と保育事業者の協力がなければ成り立たないと話されていました。新千歳空港も以前は空港内に保育所があったそうですが、現在はありません。それは、利用者が空港内に車を乗り入れできないからと思われ、利用者用の駐車場が確保できれば保育所のニーズは高いと思います。大阪国際空港では、利用者の駐車場を 1 ヶ月 1 万円で確保しています。幼児教育の無償化により、今後ますます働く女性が増えることは必死です。新千歳空港に保育所の整備を進め、子育て世代の生活基盤の安定につながってほしいと思います。

・大阪国際空港（伊丹空港）は行政区では大阪府豊中市、大阪府池田市、兵庫県伊丹市にまたがり、伊丹市は兵庫県であることを初めて知りました！！“大阪”国際空港ではないやん！！その割に説明してくださった方は兵庫県のことを気にしておられたのが不思議！企業主導型保育所は

企業が積極的に旗振り役をしないと成功しないと思った。
例えば、保育所の利用時間ひとつ考えても、空港職員の労働時間を確認しないと設定できないであろう。新千歳空港での労働者は８０００人以上と言われている。ＣＡさんは千歳に住んでいないであろうから、地上業務職員と、飲食・物販、その他空港管理業務で働いている方が千歳の場合考えられるであろう。そこの企業の理解がないと進められない企業主導型保育施設だと思った。車通勤を認めることも必要！

・施設は羽田空港のように空港内にあると考えていたが多少離れていた。子供達はとてものびのびとしていたことが印象的だった。親御さんが自分たちの近くにいるということが安心感を与えていると思う。施設的には十分な広さとは思えないが、走り回れる庭があるなどビルの中にある施設としては、環境がそれほど悪くはなかった。大阪空港では客室乗務員の方もいることから５時から２３時までの保育となっている。職員の確保が大変と感じた。送迎には空港が街に近いということもあることから公共交通や自転車、バイクなどでの送迎が容易であるので十分子供が集まる園であると思う。これが新千歳空港では同じようにはいかないと思う。新千歳空港の場合、交通アクセスが限られていることや、職員駐車場、就労シフトなど問題点が多いと感じた。近くに預けることは親にとって安心に繋がるが、送迎に課題がありすぎると感じた。今回の視察で十分にニーズがあることが分かった。空港内で働く人達からの声が必要であると思う。

・伊丹空港内にある企業主導型の認可外保育所である。地元の保育所事業者と空港の民間運営事業者「関西エアポート」とが協力して開設した。　空港という地域性、特殊性に関しては千歳市もまったく同様である。エアラインの職員家庭が主な顧客であると伺ったが、空港に付随関連する全ての方々に開放されている。ただし、作っても作っても足りないという現実がここにもあり、保育事業の難しさを感じた。千歳市においては空港内従事者のマイカー通勤が非常に少ないという現実があり、「伊丹空港でも車通勤ですよ、北海道なのに駐車場が無いんですか？」と驚かれた。当市においては空港内保育所の必要性と共に、従事者用の駐車場整備を一体となり整備する必要性がある。これが進めば千歳市の保育事情に変化が生まれ、預けたい時間とのミスマッチが減ることが期待できる。

・事前のアンケートでは入所のニーズはそんなに多くなかったが、今は非常に希望者が多く２階での増設も考えているとのことである。
　認可保育所なら補助金を当てにするが認可外では民間金融による融資で行っている。又、豊中市は市内への移住者の家賃につき、最高で月７万円まで補助している。しかし、認可外の保育所の職員はそれに該当しない。そのように認可外保育所に不利な点もあるが、地域では待機児童が多く保育所に対するニーズが高いので保育所は伸びている感じであった。
　園児と一緒に給食をいただいたが、おしゃべりで無邪気なパワーに圧倒された。